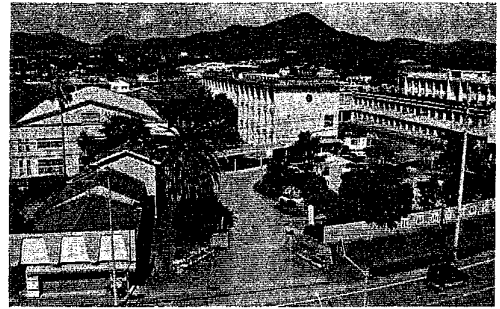


ルポルタージュ

「生きる力」をはぐくむ ふるさとの教育

— 硫黄島 自然体験教室 —
枕崎市立枕崎中学校



1 はじめに

中央教育審議会の答申では、児童生徒の「生きる力」をはぐくむために、個性的な資質を見だし、創造性等を積極的に伸ばす手だてとして、個に応じた指導の充実を図るとともに、問題解決的な学習や体験的な学習の一層の充実を求めている。さらには、豊かな人間性を育成する具体的手だてとして、特に、ボランティア活動や自然体験、職場体験などの充実を図ることが必要であることを指摘している。

枕崎市立枕崎中学校は、かつお加工業を基幹産業とする枕崎市のほぼ中央に位置し、生徒数 427 名、学級数 13 の中規模校である。学校、家庭、地域社会の三者一体となった取組が展開され、落ち着きとうるおいのある教育環境の中で、ふるさとに根付いた教育活動が積極的に推進されている。

2 「生きる力」をはぐくむ、ふるさとの教育

当校では、学校教育目標である「個性を生かし、創造性を培いながら心豊かにたくましく生きる生徒の育成」のもと、基礎学力の向上のほかに、個性や創造性に富んだ心豊かな生徒を育成する上で「体験的活動」を重要な教育活動の柱として位置付けている。

特に、特別活動では、硫黄島自然体験教室（1 学年）、修学旅行における自主研修と陶磁器、オルゴール作りなどの体験活動（2 学年）、進路調査体験学習（2 学年）、地元の基幹産業であるかつお加工場での職場体験学習（3 学年）の四つの活動を中核にすえ、生徒の主体的な取組を尊重した体験的な活動が推し進められている。

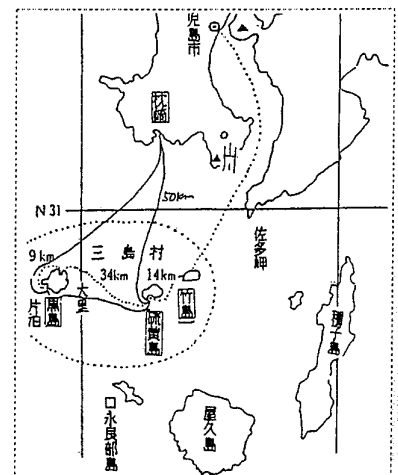
(1) 硫黄島自然体験教室

今回は、なかでも当校の「生きる力」をはぐくむ教育活動の一つである第 1 学年の自然体験教室をルポルタージュする。

当校では、自然体験活動の場を硫黄島に設定し、毎年 3 泊 4 日の日程で海洋型自然教室を実施し、今年で 11 年目を迎えている。

《《《《硫黄島の紹介》》》》

硫黄島は、枕崎市の南約 50km の東シナ海に浮かぶ周囲 14.5 km、人口約 500 名の島である。島の東方にある高さ 703 m の硫黄岳は、現在も活発に噴煙を上げている。島内にはリュウキュウチク、



硫黄島の位置図

ガジュマル、ツバキなど、数多くの野生植物が自生しており、硫黄岳登山、赤色の砂浜・天然温泉、亜熱帯植物・平家落人説にまつわる安徳帝墓所・俊寛伝説など、歴史探訪や自然散策等には恰好の魅力あふれる島である。

(2) 活動のねらい

この硫黄島自然体験活動は、次のようなねらい（目標）を設けて諸活動が展開されている。

自然に親しみながら、規律ある集団生活を通して、心身を鍛練するとともに、集団生活のルールや基本的な生活習慣を身に付け、心の触れ合いを深め、生徒自らが考え主体的に行動する力を育てる。

(1) 寝食を共にする集団生活の中で、生徒と教師の温かみのある触れ合いや生徒相互の交流を図る。

(2) 集団生活の中で基本的な生活習慣を身につけ、自分自身で考え、協力し合える態度を養う。

(3) 自然の中でのいろいろな活動を通して、学校生活では得られないものを体験し、たくましい心と体をつくる。

(4) 硫黄島の自然・産業・歴史・文化などに直接触れたり見聞きしたりすることによって、地域社会に生活する人々の暮らしと働くことの大切さを理解する。

(3) 活動の概要

ア 船上慰霊

明治28年の台風で三島近海において枕崎の漁船23隻、死者411名を出した海難事故の慰霊を硫黄島行きの船上で行う。これは100年たった現在でも語り継がれている事実で、三島の中でも特に黒島近海での遭難が多かったことから「黒島流れ」と呼ばれている。生徒たちは、遭難場所に船が近付くと甲板に出て汽笛とともに黙禱し、花束をささげる。そして、犠牲者の冥福を祈り、船内放送を聞きながら、先人の苦勞や今の生活の在り方について考える。

イ 野営・野外炊飯

生徒の自主性を生かした活動として、自然体験学習の中核に位置付け、綿密な事前指導の基に実施される。班長、安全生活係、美化保健係、食事係、レクリエーション係などの班編成を行い、それぞれの役割分担を明確にする。一人一人が安全で楽しい野営生活を送るために、生徒が必要とする様々な情報を与え、話合いの時間も十分に確保する。また、テントの設営も事前に校庭で練習を行い、当日要領よくできるようにしている。

食事の計画については、事前に献立表をつくり、メニューや分量など助言し、生徒がそれぞれ材料を分担して持ち寄り、野外炊飯にチャレンジする。

この炊飯活動の中で、生徒たちは火おこしの苦勞を知り、調理の大変さを実感し、父母の苦勞・ありがたさを体験する。



野外炊飯

ウ 三島小・中学校との交流会

硫黄島に唯一の学校、三島小・中学校（児童生徒数18人）との交歓会を行う。担当教師間で事前に綿密な連絡をとり合い、児童生徒が主体的に運営するようにして、それぞれ学校紹介をし、得意なゲームや演技を交流する。本年度は三島小・中学校のジャンベ演奏に魅了され、感動のひとときを過ごした。

エ 自然散策（7～8 km）

学級ごとに島内にある主な史跡を巡る。安德帝墓所、カメリアロード（ツバキの群生地）、俊寛堂、東温泉（天然の露天風呂）、恋人岬、硫黄岳登山等、多くの史跡がある中で、本年度は、恋人岬、俊寛堂は生徒全員が散策し、あとは自由行動とした。

散策の途中、島内で自然繁殖した純白の孔雀が道路を横切り、木の枝から枝へと飛ぶ勇姿は生徒たちの歓声呼んだ。



自然散策

オ 自由時間

3日目の午前中には、自由時間が設定される。事前に硫黄島について調査してきたことをもとにして、自然散策、民家の見学、魚釣りなど、班ごとの思い思いの行動をとる。

カ 学習会 - 島の人々の暮らしに学ぶ -

島民代表の方々4名に依頼し、人数を割り振って、島内の生活や歴史的な事について語っていただいている。生徒たちは、自然散策で発見したことや疑問に思ったこと、島内の生活で困ったことなど率直な疑問を投げ掛け、島内の生活を実感する。

キ 環境保護活動

環境教育の一環として、「来たときよりきれいに」と大掃除をする。特に海岸線には様々な漂着物があったり、自分たちが持ち込んだゴミが風で吹き飛ばされたりして硫黄島の自然環境を汚している事実気付かせる。清掃活動は師弟同行、誰もが一生懸命に活動した。

3 取材を通して

今回の取材を通して、現代っ子に不足しがちな自然体験を学校教育の中に計画的に取り入れ、全教職員が相互に知恵を出し合い、一体となって推進されていることを強く感じ取ることができた。取材の中で、今年度の自然体験教室を終えたばかりの生徒の感想文を読ませていただいた。どの生徒も一様に感動体験を述べるとともに、「たいへんだった。」「疲れた。」「もう、こりごりだ。」という感想が多かったのも事実である。

私たちは、いつしか、こういう「きつい体験」を子供たちから遠ざけてきてしまったきらいがあると思う。豊かな自然・文化に囲まれたふるさと・かごしまで、こうした自然を相手にした教育活動に10年余りも継続して果敢に取り組んでいる学校があることに感動を覚えた。

ふるさとと共に生き、ふるさとで学び・育つ子供たちを育成することが、平成14年度から始まる完全学校週五日制の目標の一つであろう。学校・家庭・地域社会の三者が、相互により深く手を差し伸べ合いながら、県下の多くの学校でこのような自然体験活動が積極的に推進され、健やかな青少年が育成されていくことを願いつつ、さわやかな気分で枕崎中学校の門を後にした。

（第二研修室 研究主事 大迫 祥三）